

行動分析士資格認定協会

第4版課題リスト

中野良顯¹

序論

BACB 第4版課題リストは、次の3部によって構成される。

I 第1部、**基本的な行動分析学のスキル**は、クライアントのすべてではなく、1部のクライアントを対象として実践する開業行動分析士が遂行する課題である。

II 第2部、**クライアントを中心に据えた責任**には、すべてのクライアントを対象として、大部分の臨床場面において適用されなければならない課題が含まれる。

III 第3部、**基礎知識**には、行動分析士として実践に入る前に習得しておかなければならない概念が含まれる。ここに記載する主題は、実践家が遂行する課題ではない。むしろ上の1、2部で述べた課題を遂行するために理解しておくべき基本的概念である。

このリストは、指導者には資源を、志願者には学習手段を提供する。協会認定行動分析士（BCBA）と協会認定準行動分析士（BCaBA）の志願者は、これらの主題を完全に理解しておく必要がある。

協会認定行動分析士（BCBA）と協会認定準行動分析士（BCaBA）認定試験で使われるテスト問題はすべて、「基本的な行動分析学のスキル」と「クライアントを中心に据えた責任」の2部に挙げた課題に関する。BCBAとBCaBAの認定試験の試験問題には、これら2部に含まれるすべての課題について、志願者の知識を評価しようとする問題が1～2題含まれる。「基礎知識」の部で扱われる主題は、特定数の問題によって、直接査定されることはないだろう。しかし

¹ クーパー、ヘロン、ヒューワード/中野良顯訳（2013）『応用行動分析学』明石書店、所収。

それらは、関連課題の問題を通じて、間接的に査定されるだろう。例えば、第 2 部「クライアントを中心に据えた責任」の課題 J・11「刺激般化と反応般化をプログラムする」についての試験問題には、第 3 部「基礎知識」の第 36 項「反応般化を定義しその例をあげる」か、第 37 項「刺激般化を定義しその例をあげる」が含まれるだろう。

「倫理的・専門的行為」(Ethical and professional Conduct) は、この課題リストの各部に含まれている。BACB「専門的懲罰倫理基準」(Professional Disciplinary and Ethical Standards) と、「行動分析家の責任ある行為のためのガイドライン」(Guidelines for Responsible Conduct for Behavior Analysts) は、この課題リストの不可欠の必携文書である。BACB 有資格者は、この専門的懲罰倫理基準に従って実践し、行為のためのガイドラインと一致するように自らの実践を構築しなければならない。志願者はこれらの文書を完全に理解することが要求される。それには「第 4 版課題リスト」で同定された課題の専門的実践に関係する倫理的行為の重要性が含まれるが、それに限定されるものではない。結果として試験には、特定の課題に関わる倫理問題を扱う問題が含まれることになるだろう。

第 I 部：基本的な行動分析学のスキル

A. 測定	
A-01	頻度（すなわち、カウント）を測定する。
A-02	比率（すなわち、単位時間当たりのカウント）を測定する。
A-03	持続時間を測定する。
A-04	潜時を測定する。
A-05	反応間時間（IRT）を測定する。
A-06	生起百分率を測定する。
A-07	基準達成試行を測定する。
A-08	観察者間一致（同意）を査定し解釈する。
A-09	測定手続きの正確性と信頼性を評価する。
A-10	等間隔グラフを使ってデータをデザインし、描き、解釈する。
A-11	データを表示するため累積記録を使ってデータをデザインし、描き、解釈する。
A-12	連続的測定手続き（例えば、事象記録法）をデザインし実行する。
A-13	非連続的測定手続き（例えば、部分インターバルと全インターバル・タイムサンプリング、瞬間タイムサンプリング）をデザインし実行する。
A-14	選択測度をデザインし実行する。
B. 実験デザイン	
B-01	応用行動分析学の次元（Baer, Wolf, & Risley, 1968）を使い、介入が本来行動分析学的か否かを評価する。
B-02	行動分析学の文献の論文をレビューし解釈する。
B-03	独立変数が従属変数に及ぼす影響を実証するため、独立変数を組織的に設計する。
B-04	実験変数除去/リバーサル・デザインを使う。
B-05	交替処遇（すなわち、多成分）デザインを使う。
B-06	基準変更デザインを使う。
B-07	多層ベースラインデザインを使う。
B-08	多層プローブデザインを使う。
B-09	デザイン成分の組み合わせを使う。
B-10	成分分析を行い、介入パッケージの有効成分を判定する。
B-11	パラメトリック分析を行い、独立変数の有効なパラメトリック値を判定する。
C. 行動変化についての考慮	

C-01	強化の好ましくない起こりうる影響について述べ考慮する。
C-02	弱化の好ましくない起こりうる影響について述べ考慮する。
C-03	消去の好ましからざる起こりうる影響について述べ計画を立てる。
D. 行動改善の基本成分	
D-01	正負の強化を使う。
D-02	適切なパラメーターと強化スケジュールを使う。
D-03	プロンプトとプロンプトフェーディングを使う。
D-04	モデリングと模倣訓練を使う。
D-05	シェーピングを使う。
D-06	連鎖化（チェーニング）を使う。
D-07	課題分析を使う。
D-08	不連続試行とフリーオペラント計画を使う。
D-09	言語査定の基本として言語オペラントを使う。
D-10	エコーイック訓練を使う。
D-11	マンド訓練を使う。
D-12	タクト訓練を使う。
D-13	イントラバーバル訓練を使う。
D-14	聞き手訓練を使う。
D-15	弱化子を同定する。
D-16	正負の弱化を使う。
D-17	弱化の適切なパラメーターとスケジュールを使う。
D-18	消去を使う。
D-19	強化と、弱化および消去の組み合わせを使う。
D-20	反応に依存しない（時間ベースの）強化スケジュールを使う。
D-21	分化強化（例えば、DRO, DRA, DRI, DRL, DRH）を使う。
E. 特別な行動改善手続	
E-01	先行事象、例えば動機づけ操作や弁別刺激の操作に基づく介入を使う。
E-02	弁別訓練手続を使う。
E-03	インストラクションとルールを使う。
E-04	随伴性契約（例えば、行動契約）を使う。
E-05	独立型、相互依存型、依存型の集団随伴性を使う。
E-06	刺激等価性手続を使う。
E-07	行動対比効果を考慮する。
E-08	対応法則を使い、選択に影響する要因を理解する。
E-09	高確率・低確率要求連続を設計する。

E-10	プレマックの原理を使う。
E-11	対提示手続を使って、新しい条件性強化子と弱化子を作る。
E-12	無謬学習手続を使う。
E-13	見本合わせ手続を使う。
F. 行動改善システム	
F-01	自己管理の戦略を使う。
F-02	トークン・エコノミー・システムや他の条件性強化システムを使う。
F-03	直接教授を使う。
F-04	精密教授を使う。
F-05	個別化教授システム（PSI）を使う。
F-06	偶発教授を使う。
F-07	機能的コミュニケーション訓練を使う。
F-08	拡大コミュニケーションシステムを使う。

第Ⅱ部：クライアントを中心に据えた専門家としての責任

G. 問題の同定	
G-01	ケース開始にあたって、記録と利用手できるデータをレビューする。
G-02	クライアントに影響する可能性のある生物学的/医学的変数を考慮する。
G-03	照会された問題を同定するためクライアントの予備査定を行う。
G-04	日常言語によって行動概念を説明する。
G-05	私的出来事も含む行動を、行動分析学の用語（心理主義の用語ではなく）によって記述する。
G-06	クライアントを支援し、およびまたはサービスを提供する他の人々と協力して、行動分析学のサービスを提供する。
G-07	応用行動分析学の自らの専門能力の範囲内において実践する。必要ならば、コンサルテーションやスーパービジョンや訓練を受け、または照会する。
G-08	行動分析学のサービスの必要を減らすような環境改善を同定し実行する。
H. 測定	
H-01	観察し記録すべき行動の次元と、詳細な業務計画（ロジスティックス）が決まったら、代表的なデータを収集するための測定システムを選択する。
H-02	観察し記録する期間のスケジュールを選択する。
H-03	関連する量的関係を効果的に伝えるためのデータ表示法を選択する。
H-04	レベル、トレンド、変動性の変化を評価する。

H-05	観察された変数間の時間的關係（セッション内と間、時系列）を評価する。
I. 査定	
I-01	観察でき測定できる用語で行動を定義する
I-02	観察でき測定できる用語で環境変数を定義する。
I-03	個別化された行動査定手続を設計し実行する。
I-04	機能査定手続の全範囲を設計し実行する。
I-05	観察されたデータを整理し、分析し、解釈する。
I-06	確立し、維持し、増加させ、または減少させるべき行動について提言する。
I-07	選好査定を設計し実行して、推定される強化刺激を同定する。
J. 介入	
J-01	観察でき測定できる用語で介入目標を述べる。
J-02	査定結果と入手できる最善の科学的証拠に基づいて、可能な介入を同定する。
J-03	課題分析に基づいて介入戦略を選択する。
J-04	クライアントの好みに基づいて介入戦略を選択する。
J-05	クライアントの現在のレパートリーに基づいて介入戦略を選択する。
J-06	支援的環境に基づいて介入戦略を選択する。
J-07	環境と資源の制約に基づいて介入戦略を選択する。
J-08	介入の社会的妥当性に基づいて介入戦略を選択する。
J-09	処遇の有効性を実証するため、実験デザインを使うときは、実際の、倫理的問題を同定して対処する。
J-10	行動を減らすときは、確立しまたは増やすべき望ましい代替行動を選択する。
J-11	刺激般化、反応般化をプログラミングする。
J-12	維持をプログラミングする。
J-13	適切な場合は介入目標として行動カスプを選ぶ。
J-14	インストラクション手続を設計して、生成的学習（すなわち派生関係）を促進する。
J-15	意思決定はさまざまな書式で表示されたデータに基づいて行う。
K. 実行、運営、スーパービジョン	
K-01	行動サービスの継続的な証拠書類の作成を行う。
K-02	行動改善手続を実行する責任者の行動を制御する随伴性を同定し、それに従って介入を設計する。
K-03	行動査定と行動改善の手続を遂行する責任者に対して、コンピテンシー・ベースの訓練を設計し活用する。
K-04	有効な行動監視（パフォーマンス・モニタリング）と、強化システムを設計し活用する。

K-05	手続きの完全性を監視するシステムを設計し活用する。
K-06	行動改善の実行者にスーパービジョンを提供する。
K-07	行動プログラムの有効性を評価する。
K-08	行動分析学サービスの直接的・間接的消費者から支援を確保する。
K-09	日常環境におけるクライアントの行動レパトリーを維持するため、人々からの支援を確保する。
K-10	サービスが必要なくなったら、きちんとした終結を設計する。

第Ⅲ部：BACB 第4版課題リストに伴う基礎知識

行動分析学の哲学的前提に従って説明し行動する

01	行動の法則性
02	選択主義（系統発生的、個体発生的、文化的）
03	決定論
04	経験主義
05	儉約性
06	実用主義（プラグマティズム）
07	行動の環境による（心理主義とは対立するものとしての）説明
08	徹底的行動主義と方法論的行動主義を区別する。
09	概念行動分析学、実験行動分析学、応用行動分析学、行動サービス配信を区別する。

定義し例を示す

10	行動、反応、反応クラス
11	環境、刺激、刺激クラス
12	刺激等価性
13	反射関係（US-UR）
14	レスポナント条件づけ（CS-CR）
15	オペラント条件づけ
16	レスポナント - オペラント相互作用
17	無条件性強化
18	条件性強化
19	無条件性弱化
20	条件性弱化
21	強化スケジュール、弱化スケジュール

22	消去
23	自動強化、自動弱化
24	刺激性制御
25	単一刺激の多重機能
26	無条件性動機づけ操作
27	条件性動機づけ操作
28	他動性、再帰性、代理性動機づけ操作
29	弁別刺激と動機づけ操作を区別する
30	動機づけ操作と強化効果を区別する
31	行動随伴性
32	近接性
33	関数関係
34	条件性弁別
35	刺激弁別
36	反応般化
37	刺激般化
38	行動契約
39	行動モメンタム
40	対応法則
41	随伴性形成行動
42	ルール支配行動
言語オペラントを区別する	
43	エコーイック
44	マンド
45	タクト
46	イントラバーバル
測定概念	
47	行動の測定可能な次元（例えば、比率、持続時間、潜時、または反応間時間）を同定する。
48	連続的測定手続と非連続的測定手続（例えば、部分インターバルおよび全インターバル記録、瞬間タイムサンプリング）を使う長所と短所を述べる。